都市再生整備計画 事後評価シート 横浜駅周辺地区

平成23年3月

神奈川県横浜市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川	県	市町村名	名		横浜市		İ	地区名 横浜駅周辺地区					面積	131.2ha	
交付期間	平成19年度~	~22年度	事後評価実施	施時期	3	平成22年度		交付対	村象事業費	6,3	380	国費率	0.4			
										事業名				-		
	当初計画に 位置づけ、	基幹事業	(仮称)反町横浜	兵緑道、滝	の川せせらぎ縁	道、南部自	由通路、E通路									
	実施した事業	提案事業	横浜駅周辺大改													
		1			事業	名				削除/追	加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影			
1/車業の中佐供に	当初計画から	基幹事業	なし													
1)事業の実施状況	制除した事業	提案事業	なし													
	新たに追加し	基幹事業	なし													
	た事業	提案事業	跨線人道橋撤去	5、反町集	会施設				跨線人道橋撤去: 反町集会施設:地		クの安全性向上の るため追加した。	ため追加した。	跨線人道橋撤去:目標に影響するが、数値目標は据え置く。 反町集会施設:指標の達成に貢献した。			
	交付期間							協議に想定以」	上の時間を要した	が、指標や数値	目標の達成に必要な事業で	あるため、交付期	間を延長して実施			
	の変更	変 更	平成19	9年度~22			、数値目標への		した。							
		指 標	;	単位	従前値	直 基準年度	目標化	直 目標年度	数 モニタリング	<u>値</u> 評価値	目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要 (総合所見		フォローアップ 予定時期	
2)都市再生整備計画	指標1 横浜駅構内通路の混雑の 緩和				65	坐十十尺 H18	30	H22		24	0	ありなし	通路拡幅に加え、周辺広場・・ ・サイン整備等の総合的対策に の快適性向上や移動時間短	連絡デッキや案内 こより、駅利用者	-	
に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標2	ボランティア	参加人数	人/年	80	H18	170	H22		180	0	あり なし	地域住民の愛護意識が共有さい。 - 活動が活性化し、まちづくりへ進された。		H23年4月	
	指標3	イベント開催	١	回/年	0	H18	3	H22		4	0	あり なし	緑道がイベント空間として利用 - が住民主体の企画・運営を支 流の活性化に繋がった。		H23年4月	
		指 標	<u>:</u>	単位	従前個	直 基準年度	目標化	直 目標年度	数 モニタリング	値 評価値	目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要 (総合所見		フォローアップ 予定時期	
3)その他の数値指標 (当初設定した数値	その他の 数値指標1	-														
目標以外の指標)による効果発現状況	その他の 数値指標2	-														
	その他の 数値指標3	-														
4) 定性的な効果 発現状況	緑道整備により良	好な住環境が	「創出され、沿線	住民の満り	足度向上や、愛	着心が強ま	った。									
70-90 PK/90					実施内容					実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリン	ング	なし		都市再生整 都市再生整				整備計画に記載し、実施できた 整備計画に記載はなかったが、実施した 整備計画に記載したが、実施できなかった							
5)実施過程の評価	住民参プロセ		なし	都市再生整 都市再生整					整備計画に記載し、実施できた 整備計画に記載はなかったが、実施した 整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまな場合		地域住民(愛護	(会)による	る緑道管理体制	钊		都市再生	登備計画に記載したが、実施できなかった 整備計画に記載し、実施できた 整備計画に記載しなかったが、実施した 整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

横浜駅周辺地区(神奈川県横浜市) 都市再生整備計画の成果概要 従前値 目標値 まちづくりの目標 目標を定量化する指標 評価値 便利で快適なターミナルの街、交通結節点の形成を図る。 横浜駅構内通路の混雑の緩和 65 H18 30 H22 単位:人/m·分 24 H22 ・歩行者の回遊性の向上と駅東西地区の一体化を進める。 ボランティア参加人数 単位:人/年 80 H18 170 H22 180 H22 ・駅周辺に展開する商業業務機能の商圏拡大を図りつつ、これまで鉄道敷地により地域分断されていた隣接開発 イベント開催 単位:回/年 4 H22 0 H18 3 H22 地区や既成市街地との接続強化を図り、駅勢圏の拡大を図る。 単位: 単位:



南部自由通路の整備



日上一つりかつなか



整備された緑道での愛護会活動

X

反町集会施設

■基幹事業

滝の川せせらぎ緑道

反町横浜緑道 □提案事業



横浜ポートサイド連絡デッキ



反町集会施設

・駅の混雑が緩和、東西の回遊性が向上した。

まちの課題の変化・緑道や集会施設の利用を通して地域交流が活性化した。

・駅周辺は十分な歩行者空間や自転車等駐輪場が不足しており、駅利用者のさらなる利便性向上が求められる。

今後のまちづくり の方策 (改善策を含む) ・地下中央通路と西口地下街の接続や、老朽化した跨線人道橋を撤去し、利用者の安全な通行機能を再構築することで、駅東西の通行機能を強化する。

・きた東口歩行者広場および自転車駐輪場整備により、駅利用者の利便性を向上することで、交通結節点を強化する。

・プロムナードを全線開通することで、歩行者ネットワークを形成し、駅勢圏を拡大する。

都市再生整備計画 フォローアップ報告書 横浜駅周辺地区

平成24年3月

神奈川県横浜市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

単位 評価値		指 標 :		従前値	目標値	事後評価				フォローアップに 計測時期		フォローアップ・時	場合や改善	比較して大きな差異がある が見られない場合等	総合所見	
指標1 横浜駅構内通路の混		1日 1示		化制阻	디 1示 IL	評価値	デ価値 見込み・確定 の別		目標達成度 目標達成度 道成見込み		日 (共) 时分	点での達成度	理由 改善策の方向性		₩6日 / D1 元	
指標2 ボランティア参加人数 人/年 170 180 見込み ● 185 H23年4月 ○ □ 改善策に補強が必要				人/m·分	30	24	確定 ●		あり	-	-	-	-	□ 改善策に補強が必要	新しい通路が全て完成し、駅全体としても利便性が向上している。	
指標3 イベント開催 回ノ年 3 4 見込み ● ○ 5 H23年4月 ○ □ 改善策に補強が必要 緑道オープニンゲイベントもは	指標2	ボランティア参加人数		人/年	170	180		0		185	H23年4月	0		□ 改善策に補強が必要	緑道の維持管理活動等、継続的に 市民主体による活動が展開されてい る。	
指標4	指標3	イベント開催		回/年	3	4		. 0		5	H23年4月	0		□ 改善策に補強が必要	地域活動の場として利用されている。 緑道オープニングイベントも地域主体 で実施された。	
<u>指標5</u> H 年 月 H 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	指標4										H 年月			□ 改善策に補強が必要		
見込みしなし、これに改善策をたてる	指標5						確定 見込み		あり なし		H 年月					

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

Y ※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標			· 従前値	目標値	事後評価				フォローアップ(こ		フォローアップ・時	場合や改善	比較して大きな差異がある が見られない場合等	総合所見
		単位		日保胆	評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の 達成見込み		H1 W144 M1	点での達成度	理由	改善策の方向性	松口門兄
その他の数値指標1	-					確定 見込み				H 年月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	
その他の 数値指標2	-					確定 見込み				H 年月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	
その他の 数値指標3	_					確定 見込み				H 年月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-2から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4一③「今後のまちづくり方策」の進捗状況

		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
	新たに整備された緑道空間の有効活用	地域住民主催の緑道オープニングイベント開催支援	緑道や集会所において様々なイベントが行われ、に ぎわいを創出ている。	なし
・成果を持続させるために 行う方策	策定されたまちづくり指針の深度化		付走都甲冉生緊忌釜脯地域拍走(HZ4.1.20)、環境 丰本都市選定(H23.12.22)	民間開発に関連した基盤整備の調査設計等を進めるとともに、イン フラ基本計画の策定やまちづくりガイドラインの更新に向けた取組 みを行っている。
改善策	駅勢圏の拡大	高島山トンネル区間の供用開始	緑道の全線が利用可能となり、歩行者ネットワークが形成され、通勤・通学、散歩など多くの市民に利用されている。	なし
・まちづくりの目標を達成するための改善策・残された課題・新たな課題への				
対応策・その他 必要な改善策				

事後評価シート 添付様式5-3から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
なし			

都市再生整備計画(清算報告)

横浜駅周辺地区

神奈川県横浜市

[・]様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	横浜駅周辺地区			面積	131.2 ha
計画期間	平成 19	年度 ~	平成 2		交付期間	平成	19 年度 ~ 平成	22	年度

目標

- ・便利で快適なターミナルの街,交通結節点の形成を図る。
- ・歩行者の回遊性の向上と駅東西地区の一体化を進める。
- 駅周辺に展開する商業業務機能の商圏拡大を図りつつ、これまで鉄道敷地により地域分断されていた隣接開発地区や既成市街地との接続強化を図り、駅勢圏の拡大を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

横浜駅は、鉄道5社7路線が乗り入れ、1日あたり約200万人の乗降客が利用している。また、駅東西の駅前広場周辺地区には、大型商業施設やホテルなどが立地し、鉄道やバス、タクシー等により多くの市民が集う市内で最大のターミナルとなっている。駅利用者は、鉄道、バスの乗り継ぎ・乗り換えや駅東西間の通行のために、現在ある横浜駅中央自由通路に集中し、朝夕の通勤、通学時間帯や休日には混雑が激しく、安全かつ快適な歩行者空間が十分確保できない状況にある。 このような状況のもと、横浜駅では平成16年1月に「みなとみらい線」が乗り入れる一方で、隣接するみなとみない21地区やヨコハマボートサイド地区では土地区画整理事業や再開発事業の大規模開発が進められており、今後ますます利用者の増加が見込まれている。このため、鉄道、バスターミナル、タクシープール間の移動の連続性を高め、駅東西地区間の連絡性・回遊性などの向上を図り、歩行者の利便性の強化など「交通網の整備改善等に伴う地域づくり」が求められている。 また、横浜駅周辺地区に展開する商業業務機能の集積を活かしつつ、さらに横浜都心部全体の一体化や拡大強化により都市活動や、経済の再生を図っていくためには、横浜駅と周辺地区との連絡強化により、駅を中心とする日常商圏の拡大を図っていく必要があり、これまで鉄道高架や河川等で分断されていた地域を一体化していく必要がある。

課題

- 横浜駅周辺地区においては、鉄道敷地が地域分断や周辺土地利用の促進を妨げる要因となっており、商圏拡大の阻害要因となっている。
- ・この点で、東横線の地下化に伴う跡地の活用は、都心部における土地の有効活用のみならず、これまでの地域分断要因の解消や、駅直近でありながら低密利用となっていた地区の発展を促し、駅を中心とする都心の拡大強化を図る上で有効である。 ・このため、駅東西の一体化と回遊性の向上を図るために進めている南北通路や関連事業である東西自由通路の整備と併せ、駅周辺地区を含めた駅勢圏の拡大強化に寄与するものとして、横浜駅周辺地区整備の一環として、鉄道跡地の活用を一体 的に推進していくことが必要である。

将来ビジョン(中長期)

横浜都心部全体の玄関口として、首都圏でも有数の交通拠点として発達してきた横浜駅周辺地域において、その優れた立地特性を生かし、多様な機能が集積した魅力と賑わいのある広域中枢拠点を形成する。

目標を定量化する指標

指標			目標と指標及び目標値の関連性	從前値		目標値	
拍 惊	単 位	定義	日保と指信及び日信担の判定性	化削胆	基準年度	日保胆	目標年度
横浜駅構内通路の混雑の緩和	人/m·分	朝ラッシュ時における横浜駅構内通路のサービス水準	自由通路の整備により混雑を緩和する	65人/m·分	H18	30人/m·分	H22
ボランティア参加人数	人/年	緑道管理等におけるボランティア参加人数	緑道を、地域住民による自主的・持続的な運営管理を行い、安心で楽しめる緑道の魅力を高めていくため、緑道の安全性や利便性の向上を図る。	80人/年	H18	170人/年	H22
イベント開催	回/年	緑道内で行われるイベント開催の回数	地下化された鉄道敷き跡地に緑道を整備することで、明るく利用しやすい 環境を造り出し、活発な市民交流を通じた地域の活性化を図る。	0回/年	H18	3回/年	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
	·南部自由通路整備事業 ·E通路整備事業
・横浜駅周辺地区において、東横線地下化区間(東白楽〜横浜駅間)の跡地利用は、歩行者の回遊性・利便性の向上、横浜駅を中心とする駅勢圏の拡大強化、並びに都市環境の改善を図る上で有効であることから、周辺の歩行者系プロムナードとのネットワークの形成を図りつつ、緑道として整備を行う。	- 反町横浜緑道
・水と緑の拠点を結ぶネットワークの形成	・滝の川せせらぎ緑道
その他	

交付対象事業等一覧表

横浜駅きた西口暫定広場整備事業

交付対象事業費	6,370 交付	才限度額		2,548.0	国	費率	0).4					
												(金額の)	単位は百万
事業					(糸老)	事業期間	交付期間	内事業期間	(参考)全体	交付期間内			交付対
事業 細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	事業費	事業費	うち 宣 負 担 分	うち民負担分	事業費
道路					刑和干及	1117人	カルース	作了一尺	尹 木貝	尹木貝	プラロスにカ	乃以其正刀	于木具
2園	(仮称)反町横浜緑道	横浜市	直	0.78ha	H16	H21	H19	H21	4.855	505	505	0	
可川	(区刊7人門及八杯足	19475(1)	臣	0.7011a	1110	1121	1113	1121	4,000	500	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	Ů	
下水道													
駐車場有効利用システム													
地域生活基盤施設													
高質空間形成施設	滝の川せせらぎ緑道	横浜市	直	0.16ha	H19	H20	H19	H21	15	15	15	0	
高次都市施設													
既存建造物活用事業													
初士五九六海加上数件事类	南部自由通路	横浜市	直	L=100m,W=27m	H9	H20	H19	H22	6,729	3,332	3,332	0	
都市再生交通拠点整備事業	E通路	相模鉄道(株)	間	L=130m,W=4m	H16	H21	H19	H22	4,686	2,731	1,821	910	
土地区画整理事業													
市街地再開発事業													
住宅街区整備事業													
地区再開発事業													
人にやさしいまちづくり事業													
優良建築物等整備事業													
拠点開発型 住宅市街地 (公送策整併刊)													
松合敕備 石坦寺登開望													
事業 密集任宅市街地整備型													
耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業													
住宅地区改良事業等													
都心共同住宅供給事業													
公営住宅等整備													
都市再生住宅等整備													
防災街区整備事業									10.005	0.500	5.070	010	
合計									16,285	6,583	5,673	910	
事業		1	ı	1	(女女)	事業期間	カルカ門	内事業期間	(全本) 人 仕	女人地眼内			ホムヤ
事業 細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	開始年度	更未期间 終了年度	開始年度	ペース 新川 終了年度 ************************************	(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	シナ ウ色田八	うち民負担分	交付対 事業費
神境日 神境日 跨線人道橋撤去	_	横浜市	直	56m	用知平及 H22	秋 J 平及 H26	用知平及 H22	秋 J 平及 H22	尹未貝 300	尹未貝 25			尹未3
地球剧道 5m隹~佐記	_	横浜市	直	100m²	H20	H20	H20	H20	350	35			
支援事業		1英/六川		100111	1120	1120	1120	1120	33	30	, 33	J	
事業活用調 横浜駅周辺大改造計画策定調		横浜市	直	_	H19	H22	H19	H22	637	637	637	0	
李		1,47,54,11	匝		1113	1122	1113	1122	007	007	007	Ü	
まちづくり活													
動推進事業													
合計									972	697	697	0	
												合計(A+B)	(
考)関連事業												1 <u></u>	
	市类生記名	古米十十	武佐少亡 2	+8+#		(いずれ	iかにO)		事業	期間	人人古世	1	
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	全体事業費	ĺ	
北部自由通路事業	横浜駅	横浜市	国土交通省	L=160m,W=20m		0			H7	H21	5,800	1	
東横線廃線跡地自転車歩行者専用道路等整	横浜駅周辺地区	横浜市		約1.8km(約1.2ha)		Ö			H16	H28	8,014	1	
市街地再開発事業	高島二丁目地区	高島二丁目地区市街地再開発組合	国土交通省	1.0ha		Ö			H14	H19	20,800	1	
横浜駅ポートサイド連絡デッキ整備事業	ヨコハマポートサイド地区	横浜市		L=154m,W=7.5m		Ö			H16	H20	2,915	1	
横浜駅きた西口暫定広場整備事業		横浜市		200m²		1	0		H20	H20	5	1	

200 m²

横浜市

H20

H20

37,534